

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400079	事業の開始年月日	平成18年12月1日
		指定年月日	平成30年12月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷		
所在地	(〒246-0006) 神奈川県横浜市瀬谷区上瀬谷町56-4		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度も「新型コロナウイルス肺炎」感染症が蔓延し感染症予防の観点からボランティア、ご家族様等の面会規制を行うという繰り返しの中、法人主催健康増進課スタッフや事業所スタッフによるzoomを活用した大規模運動レク・室内小規模レク、散歩等に力を入れて行ってきました。普段運動をあまり行わないご利用者様も興味本位からか参加されていました。いつもとは違う雰囲気の中でご利用者様が退屈を感じない様に配慮、他事業所ご利用者様との触れ合いの場も多く比較的帰宅願望等の症状が少ないと感じる年でもありました。早く感染症が終息する事を願い情報の共有を図りスタッフが一丸となり事故防止、感染症防止に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年11月2日	評価機関 評価決定日	令和5年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は相鉄線瀬谷駅または小田急線鶴間駅からバス便を利用し、最寄りのバス停から徒歩4分程に立地している。近隣は農地が広がる自然豊かな環境である。木造2階建ての事業所は整理整頓されて、利用者がスムーズに移動できる動線を確保している。1階の浴室はリフト浴の設備がある。 【コロナ禍における心身の健康を保つ支援】 感染対策をして天候の良い日には、車椅子の利用者も含め、全員が近隣への散歩や庭、ベランダで外気浴をしている。コロナの感染状況を見極めつつ、神社への初詣やお花見等の外出を支援している。また、コンビニエンスストアで好きなお菓子や飲み物を購入して近隣の公園に出かけている。月2回法人からインストラクターが来訪して体操やヨガを行い、健康増進を図るほか、SNSを活用してリモートレクなどを行い、気分転換を図るなど、コロナ禍において心身の健康を保つ様々な支援に努めている。 【災害対策】 事業所の所在地がハザードマップ上で浸水の想定区域であることから、近隣の介護老人福祉施設と「風水害時の一時避難場所提供に関する覚書」を交わし、災害に備えている。法人がBCP(事業継続計画)を作成し、定められた防災訓練を実施している。「災害備蓄一覧表」で在庫管理を行い、3日分の食料と飲料水の他、カセットコンロなどの生活備品や衛生用品を準備している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		レ	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		レ	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		レ	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		レ	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		レ	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		レ	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		レ	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		レ	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		レ	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		レ	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の理念があり共有し合い行動しているスタッフが多数と感じる。それぞれに応じたケアを考え実践に結び付けていると考える。	事業所の理念「笑顔…いつも笑顔で明るいホーム作り」「気くばり…ご入居様が何を望んでいるのか察し提供をしていく」「安心…生活不安がなく過ごせる事でご利用者様の心の安心を図る」を事務所に掲示し周知している。月初に行うユニット会議で月目標を設定し、月末の全体会議で振り返りを行っているが、その中で理念についても話し合い再確認をしている。職員は、利用者に笑顔で明るく接することで利用者に安心してもらえるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月「ひとこと通信」をご近所等に配布している。今年度も、コロナ禍にあり入館規制等継続、事業所での行事等への参加は促していない為、関りは持っていないと考える。	上瀬谷町内会に加入している。町内会の行事などの情報は、回覧板で収集している。事業所の存在を認知してもらう目的で、近隣住宅20軒程に活動状況などを掲載した「ひとこと通信」を毎月配布し事業所の様子を伝えている。以前は、町内会の子供神輿が立ち寄っていた。また、近隣の老人会から「法人のオリジナル体操を披露してほしい」と依頼があり、披露していたがコロナ禍で中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所ブログや通信等で認知症に関する内容は取り上げている。「認知症」への理解はある程度持っていてくれていると考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍の関係で、郵送・電話にて意見・助言をいただいている。ご家族様の理解もありサービス向上に生かしているが「コロナ対応」で無理難題も稀に意見を言われる事がある。	運営推進会議のメンバーは、利用者の家族等と地域包括支援センターの職員、事業所の職員である。偶数月に開催し、今年度は、コロナ禍で書面開催としている。事業所では、報告書をメンバーに郵送して、意見や質問を受け付けている。メンバーからねぎらいの言葉はあるが、特段の意見は寄せられていない。	重要事項説明書に明示の地域住民の代表者がメンバーになっていません。運営推進会議のメンバーになってもらえるよう、近隣や地域の方々へ働きかけることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染症に関する情報交換・物資の調達等で連絡は取り合っている。対応が早く特に困り事は無く関係は築けていると思考える。	区の高齢・障害支援課へは、介護保険認定更新時や困難事例があった際などに訪問し、利用者の様子を伝えている。コロナ禍においては、感染対策に必要な物品の配給や情報交換などを行っている。生活保護費を受給している方がおり、生活支援課の職員と連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回、年6回、うち研修を2回実施している。玄関等の施錠に関してはご家族様より安全面から許可されていて身体拘束とは認識していない。	身体的拘束適正化の為の指針を定め、身体的拘束適正化委員会を年6回行っている。原則、全職員参加の身体拘束に関する研修を実施している。理解度テストを行い、指針を確認しながら理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を2ヶ月に1回設置して虐待が無い会議で話し合いケアに努めている。委員会時は気付いた事を話し合いゼロに向けてスタッフ研修も行っている。今のところ事案は無い。	運営規定などに高齢者虐待の為の指針を整備し、委員会の定期開催や研修を実施することを明示している。研修は、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みに関する内容となっている。セルフチェックを行い、日頃のケアが虐待にあたらないかの確認をしている。管理者は、職員のストレスが虐待につながる事を理解しており、コミュニケーションを密に図り、注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催による研修があり、制度については理解はあると思う。成年後見制度を必要とされるご利用者様がおられる時は支援を行っている。事案もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は十分に説明を行い、理解・納得していただいた上で捺印を頂いている。疑問点等が出た場合はきちんと説明も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録を役所等で閲覧出来る。施設スタッフ・ご利用者様・ご家族様等の意見は協力機関等へ意見として伝え運営に反映させている。意見・苦情専用はがき等も設置運用している。	事業所の様子を毎月発行の「ひとこと通信」と「〇〇様のご様子」で家族等に伝えている。家族の意見・要望は、家族会、運営推進会議、来訪時、電話連絡などのやり取りで把握している。家族会は、現在、コロナ禍で中断している。長期間、家族との面会が叶わなかったこともあり、家族からは、面会希望の意見が上がっている。感染状況が落ち着いた10月より、感染対策をした上で玄関で利用者と家族の対面の面会を開始している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月初めの各ユニット会議・月末の全体会議を開催し意見や提案を言い合い、運営に反映させている。場合に応じ「個人面談」を行い、より良い運営に反映が出来ていると考える。	職員の意見・提案は、管理者が日々の会話や毎月のフロア会議、全体会議、個人面談などで聞き出し、運営に反映している。原則、年2回個人面談を行っているが、必要に応じて随時面談も行っており、業務に前向きに取り組めるよう話し合っている。日頃から管理者と職員が直接話をする機会が多く、職員が気軽に意見や希望を伝えられる環境が整っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見を聞き、個人面談を行い働きやすい環境作りに努めている。働きやすい施設と自負している。場合によっては本部MG等と連絡を取りより良い方法を検討、整備に努めている。	本部のマネージャーが現場に出向き、職員の業務の内容や状況などを把握している。管理者は、個人面談を行って、職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係の把握に務めている。有給休暇などの取得は、希望に沿えるようにしている。法人は、職員の資格取得に向けて受講費用を負担する支援を行い、取得後は職場で活かせる場を作るように努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアに不安を感じるスタッフには社内外の研修や個別に実践研修等を進め、ケアリーダー研修・キャリア入社研修等に参加させている。法人以外の研修は現在コロナ禍にあり中々出席者が集まらない。	法人で定めた研修計画があり、法人の横浜研修室で開催する研修に職員が参加している。受講後は、資料を配布などを行い、研修内容を職員間で共有している。外部で開催される研修は、コロナ禍で思うように受講できていない。資格の種類によって定められた取得の為の支援制度がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所長会議等で他事業所との話し合いや相談が出来る。今年度もコロナ禍の影響で交流の機会はzoom会議等であるが、共有し話し合い等が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍にあり、家族面会等規制の中、困り事・不安が無い様に関係作りは概ね出来ていると考える。要望等を取り入れ個別の対応が出来る様にスタッフには指示している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や困り事はよくお話を伺い関係構築は出来ていると考える。スタッフが対応不可な場合はすぐ事業所長に連絡を取り所長から指示・相談等を行い対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援を考え、話し合い不安のない最善の対応に努めている。3者または医療関係者等の意見交換を行い今必要とするケアアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いや悩みを考え寄り添い安心感のある関係を築いていると考える。悩み事はスタッフと共に一緒に解決し、スタッフ同士がその後も共有を図っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所長を創めご家族様の意見を大切に今出来る最善の対応が出来る様に支援している。ご家族様も協力的に通院等行ってくれていて関係は良好と考える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年同様コロナ禍にあり現在も入館規制があり対面での面会は行っていない。電話対応・ガラス越し等を行っている。面会緩和から再度の規制の繰り返しが続き支援と言う程今年度も出来ていないと考える。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	規制の中不安や孤立しない様に小規模レク・運動レク等を行いご利用者様同士がコミュニケーションを図れる様に努めている。散歩も身体機能が同じ様な方と出かけたりと支え合い生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援を行う事もある。稀に現状報告やホームに立ち寄られる方もおられ、サービス終了後も良い関係が保たれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様・ご本人様の意向を確認しカンファレンス等を行いそれぞれに沿えるようなケアに努めている。場合により協力医療機関とのカンファレンス等も行いスタッフで共有が出来ていると考える。	職員は、入居前に利用者の住環境や生活歴を確認している。入居後は、日常会話の他、レクリエーションの際に、思いや意向の把握に努めている。職員とふたりになれる散歩や入浴時に利用者の思いを聞く機会も多く、表情が切り替わる時などを見逃さないようにして意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、動作や表情、家族の意向を汲み取って、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報ファイルがあり、スタッフは必ず入居前に確認把握する様にしている。ご家族様にも生活歴等を面談時に細かく聞き虚偽報告が無く入居後の生活に、役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自身で出来る事と出来ない事を理解し、スタッフ間の情報の共有を図り現状の把握に努めている。個々に合った過ごし方が提供出来ていて有意義な生活が送れていると考える。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・スタッフ・介護計画作成士と話し合いより良いケアが出来る様になっている。現状の把握、これからのケア等話し合い現状維持もしくはそれ以上の生活が出来る様に行っている。	介護計画は、モニタリングの課題確認を基に、ニーズを把握し作成している。利用者・家族の要望や医療関係者の意見も反映している。短期目標は3か月、長期目標は6か月ごとに見直し、状態に変化があれば随時見直している。「認知症対応型共同生活介護計画」のサービス内容の番号を生活記録に記入して、提供サービスの実施状況を利用者ごとに確認出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記入スタッフ間で共有している。個人別申し送りノートも活用しスタッフが日々の様子が分かる様にしている。認知症状や細かい気づき等も共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ間で個々の思いを共有し最善のサービスや支援が出来る様に取り組んでいる。また、その時々事案に合った個別対応（ご家族様）にも対応する様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩でコンビニで買い物やブドウ畑、野菜畑をご覧になり自然や資源の把握を図っている。コンビニでお好きなお菓子やお飲物を購入し近所の公園等へ出掛けられる事もある。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が安心・納得した医療機関で受診していただいている。協力医療機関から細目に指示もいただき相談も良く対応して関係性は良好である。コロナ禍において通院からホーム訪問に切り替えた医療もある。	利用者全員が協力医療機関（内科）と契約して月2回の訪問診療を受けている。歯科医が月2回、歯科衛生士が月4回来訪し治療や口腔ケアの指導をしている。専門医の受診は、家族付き添いによる通院を基本としているが、現在はコロナ禍で眼科医や皮膚科医に往診を依頼している。月4回、訪問看護師が来訪し利用者の健康観察をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ間・ご利用者様・医療関係の申し送りノートを活用し適切な看護が受けられる様になっている。小さな事でも伝達は怠らない様にしてスタッフ個人の意見も反映している。看護師との連携も良好で信頼もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医療機関と3者間の連絡を密にとり現状の把握・早期退院に努めて細かく話し合いを行っている。医療機関との関係性も良好で信頼もあり、退院後のケアもきちんと行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常時は早い段階でご家族様・医療関係者と話し合いを行い、今後に必要な最善の支援・サービスが行える様に取り組んでいる。終末期支援の時はスタッフと十分に話し合い最善のケアが出来る様に研修等も行っている。看取り後のスタッフのフォローも行っている。	事業所が看取り介護を行う事を契約時に説明している。終末期と医師が判断した際に「看取り介護指針」を基に看取りの考え方や介護について説明し、家族の同意を得ている。管理者が看取り介護マニュアルを基に研修を行い、看取り後には振り返りを行っている。前年度から本年度にかけて2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・訓練実施。スタッフはマニュアルを熟読し適切な対応が出来る様にしている。AED訓練等も取り入れて実践に繋げている。医療期間共、直ぐに連絡が取れる対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害・火災・地震等訓練は行っている。第一避難場所の確保も出来ている。コロナ終息時、近隣施設と訓練等も行う予定ではある。連絡を取り合い関係も良好である。同行訓練は現時点では行っていない。	事業所の所在地がハザードマップ上で浸水の想定区域であることから、近隣の介護老人福祉施設と「風水害時の一時避難場所提供に関する覚書」を交わしている。6月に火災を想定した訓練を実施した。2回目の訓練を11月11日に予定している。法人がBCP（事業持続計画）を作成している。災害備蓄品の在庫管理を「災害備蓄一覧表」で行い、食品の賞味期限等を確認している。お粥、安心米、カレー等、3日分の食料と飲料水の他、カセットコンロなどの生活備品や衛生用品などを準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各委員会を設置。会議等で検討を行い不適切な事案がある時は注意または個別面談を行っている。必要時には本部MG含め検討するが、今のところ大きな事案は無い。指針も掲げている。	職員は利用者の話した事は否定せず傾聴に努める等、人格を尊重するように心掛けている。利用者の呼称は名字に「さん」付けを基本としている。トイレ誘導の際には「花を摘みに行きませんか」等の声掛けをして、「トイレ」という言葉を極力使わないようにしている。居室の扉は、室内から施開錠が出来る為、プライバシーが保てる。管理者は、職員の会話や行動で、気になったことは都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向を伺い、尊重し、自己決定出来る様に支援を行っていると考え。認知症を理解し、なるべく希望に沿う様に介護計画書を作成し必要な支援・ケアが出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースに合わせてられる様にスタッフには指示。その人らしい生活が出来る様に支援していると考え。なるべく不安の無い生活が送れる様に合わせた支援等行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服・靴等選べる様に支援している。お化粧品や髪型もご本人様の意向を尊重している。カットも同様である。ご家族様の支援もあり希望に沿える支援が出来ていると考え。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、ご利用者様と食事の取り分けや食後、食器拭き等一緒に行っている。提供食事も個々の形態・量で提供している。食べたい物が食べられる様に意見も取り入れている。また、自助具も活用し楽しい時間を提供している。	専門業者の献立に基づいて配送される食品を温めて提供している。季節行事に合わせた献立や郷土料理が提供されている。食器拭きを行ったり、「おやつレク」で、おはぎを作るなどして利用者が食事に関わる機会を作っている。利用者の希望でカップラーメンなどを提供する事もある。恒例行事の「出前寿司」は好評で、利用者が食事を楽しむ一助になっている。一人ひとりの力量に応じ、自助具を活用したり栄養補助食品を利用したりして、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・栄養バランスは個々に応じた量・方法を提供している。1日のトータル量を把握し共有もある。医療機関とも連携し補助食品等活用、栄養バランスを保っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアの声掛け～誘導・確認を行い、清潔を保っている。介助が必要な方はスタッフがケアを行う。訪問歯科医等共、連携をしている。口腔ケアには特に力を入れて取り組んでいると考える。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力、トイレでの排泄を促し支援している。習慣等を把握し声掛け、誘導、介助を行っている。出来る事は極力ご本人様に行なって頂いているが、必要に応じ介助支援を行っている。ご家族様とも連携し、対応を決めている。	「排泄チェック表」で把握した排泄パターンに基づく定時誘導、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行いトイレでの排泄を支援している。トイレ内にタオルウォーマーを設置している。夜間は、ポータブルトイレを使用する方や定時誘導をする方など、個人の特性に合わせて支援している。1月に「おむつ研修」を行い、リハビリパンツやおむつ使用の目的や使い方などを学び直して、排泄の自立に向けた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取管理を行っている。便秘者には乳製品等お勧めしている。排便を促す様に軽い運動を行ったり、主治医と相談し下剤調整にて排便の管理に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に添える様に支援は行っている。ゆっくりと入浴でき安全に楽しく入浴して頂いている。リフト浴での入浴も取り入れお互いに負担の無い様に行っている。入浴剤等を使用し心身共に楽しめる様工夫もしている。	入浴は概ね週2回、入浴剤を使用し、利用者が気持ち良く入浴できるよう支援している。現在、毎日の入浴を希望する方はいない。入浴を好まない利用者は、無理強いせず足浴や清拭で対応している。浴室にパネルヒーターや脱衣所に空調機を整備し、冬季のヒートショック対策をしている。1階の浴室には、リフト浴の設備がある。身体の状態により、2階の利用者もリフト浴を使用して、安心して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間等設定無くご自分のペースで休息、入眠が出来る様に支援している。個々の様子に合わせて日中も安心して休んでいただいている。使い慣れた安眠しやすい寝具の使用も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを活用し、理解に努めている。主治医・薬剤師との連携を図り最適なお薬を提供出来る様にしている。出来る限り服薬数を減らす様に主治医と相談も行っている。現在も調整中である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男女問わず日常家事を行っている。個々の力に合った物作りや貼り絵等も楽しんでいる。植物のお世話やおやつレク等で簡単な軽作業も行っている。生活歴に合った楽し見方を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在もコロナ禍にて近所への散歩は行っているが交通機関等を使用した外出等を行っていない。希望があれば検討は行おうが感染面・安全面等考えてご家族様と相談の上現在は不可としている。	天候の良い日には、車椅子の利用者も含め、散歩や、庭やベランダ等で外気浴をしている。神社への初詣やお花見等の外出を支援している。コンビニエンスストアで好きなお菓子や飲み物を購入して近隣の公園に出かけている。法人の方針のもと健康増進を図る目的で月2回インストラクターが来訪して体操、リズム体操、ヨガなどを行い利用者の気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はほぼ無いと考える。必要時にご家族様の許可を得て所持される事はあるが、紛失、トラブルを考慮し使用に関しては管理者が一括して管理を行い必要時に管理者の下使用される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様・友人等と電話にてお話しはして頂いているが聞こえているかは分からない。手紙もやり取りは行っていて必要時はスタッフが代筆しポストイン等支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃は行っている。壁にその時々のお花のお写真を貼ったり、季節のお花を飾ったりと居心地の良い空間作りを工夫している。照明色、動線の確保に努め必要の無い物は置かず整理整頓をしている。清掃・空間作りは特に重要視し口煩くスタッフに指示している。	共用空間は、明るくゆったりしている。廊下の幅は広く、動線が確保されている。車椅子の方も使用しやすい洗面台が設置されている。温湿度管理のほか、コロナ発生時の空間殺菌に対応した空気清浄機を設置している。毎日の清掃のほか、環境整備の一環として本年は、床清掃を業者に依頼している。リビングの壁の一角を装飾コーナーとして、季節行事の写真や貼り絵を飾っている。庭に金木犀などの花木を植えて季節を感じられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお友達とお話が出来 る・楽しめる様に座席をご利用 者様と考え随時変更を行っている。 お互いに気を遣う事が無く 自由に楽しく過ごせる様に支援 している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様・ご利用者様と相談 し、ご本人様が使い慣れた家具 等を持ち込み配置させて頂いて いる。壁のレイアウト（簡単に 撤去が出来る範囲）やテレビ等 も持ち込みは許可している。	車椅子や歩行器を使用している方の動線に配慮した居室になっている。居室には、洗面台、エアコン、照明、防炎カーテン、クローゼット、整理ダンス、ベッド、寝具一式が備え付けられている。位牌、写真、机、椅子、テレビ、カレンダーなどの思い出の品や好みの品が持ち込まれている。生活を楽しむ一環として、居室で観葉植物の世話をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア⇄居室・トイレ等安全に 移動が出来る様に動線の確保等 を考えている。出来る事を引き 出せる様創意工夫もしている。 必要のない物は撤去し、安全に 配慮した生活が送れる様に支援 している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームみんなの家・横浜上瀬谷

作成日

令和5年3月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍において地域住民や代表者等の参加が出来ていなかった。郵送は行っていたが返信が無い状態であった。こちらからの電話連絡等の対応を考えた方が良い。	コロナも落ち着きを見せたので来期は事業所での開催を行いたい。また、参加されない時は電話連絡を行って意見等を頂くように考えたい。	来期の開催を事業所で行える様に発信を行う。また、参加されないご家族様、地域住民には郵送での対応と電話連絡等にて意見の交換を行う。	4～6ヶ月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。